

宇部市成長産業推進協議会 運営委員会 議事録

1 日時 令和7年2月12日(水) 13:30～15:30

2 場所 本庁舎3階3-3、3-4会議室

3 出席者(敬称略)

<運営委員>

	所属・役職	氏名	代理出席
商工団体	宇部商工会議所 会頭	杉下 秀幸	
企業	UBE株式会社 常務執行役員	高瀬 太	総務・渉外部 部長 曾我 一仁
	セントラル硝子株式会社 執行役員 宇部工場長	森野 譲	
	西日本電信電話株式会社 山口支店長	西 一仁	副支店長 光本 幸夫
	株式会社ヤナギヤ 代表取締役社長	柳屋 芳雄	監査役 藤本 哲憲
	ユーピーアール株式会社 代表取締役 社長執行役員	酒田 義矢	欠席
大学等	国立大学法人山口大学 大学院医学系研究科長・医学部長	田邊 剛	欠席
	国立大学法人山口大学 大学院創成科学研究科長・工学部長	山田 陽一	
	国立大学法人山口大学 大学院技術経営研究科長	稲葉 和也	欠席
	独立行政法人国立高等専門学校機構 宇部工業高等専門学校 校長	金寺 登	
金融機関	株式会社山口銀行 執行役員 宇部支店長	大本 理恵	副支店長 河野 秀孝
	株式会社西京銀行 執行役員 宇部支店長	岡田 一夫	欠席
	西中国信用金庫 宇部支店長	片岡 謙蔵	
支援機関	地方独立行政法人 山口県産業技術センター 理事長	小関 浩幸	
	公益財団法人 やまぐち産業振興財団 副理事長	福田 浩治	欠席
自治体	山口県産業労働部長	高林 謙行	イノベーション推進課 課長 兼清 未知留
	宇部市長	会長 篠崎 圭二	

<関係者>

株式会社三菱総合研究所 主任研究員 佐々木 玄太

<事務局>

産業経済部 部長 林 孝之、次長 村岡 和弘

成長産業創出課 課長 中村 勇一郎、副課長 川本 満隆、係長 清永 浩幸、主任 西郷 勝紀

4 内容

(1) 会長挨拶

(2) 令和6年度成長産業の創出・育成に向けた取組について

別紙、資料3により事務局が内容説明。

— 説明に対する質疑 —

(3) 成長産業に関する令和7年度の取組の方向性について

別紙、資料4により事務局が内容説明。

— 説明に対する質疑 —

(4) 取組発表

別紙、資料5により事務局が内容説明。

— 説明に対する質疑 —

(5) アドバイザリー機関による意見等

別紙、資料6により株式会社三菱総合研究所が内容説明。

— 説明に対する質疑 —

(6) 意見交換

【運営委員の主な発言概要】

- ・研究開発には多額の資金が必要になる。今回、西京銀行の取組により、研究開発から事業化まで切れ目のない支援体制が整ってきた。
- ・少子化が進み大学も学生から選ばれるということが増えたように思う。大学発スタートアップ企業の取組などを対外的にPRして大学の魅力を高めていくことも必要である。
- ・今後のビジネスでは1社単独でできるものはあまりない。スピードアップの観点においても共同体制が必要になるので、展示会などへの積極的な出展を通じて共同体制の構築を進めていくべき。
- ・宇部市のこれまでの取組は共同体制ができていると思うので継続して進めていただきたい。
- ・各フェーズに応じた支援策があるが、今後のステージゲートの設定とレビューが大事になる。
- ・たくさんのプロジェクトができてアウトプットに繋がらないということもよくある。しっかりレビューして進捗管理をしていくことが必要である。
- ・宇部市や山口県が採択しているプロジェクトやテーマなどは、高齢化や人口減少が進む日本全国どこでも同じように課題として捉えている。
- ・日本全国で同じような取組を展開していく中で、外部から資金を集めるためには、宇部市の強みをしっかりと理解して発信していくことが必要である。
- ・DXの推進は避けては通れないテーマであるが、目的が生産性の向上である取組が目立つ。
- ・DXの取組は人の仕事を奪う可能性もあり得るので、対象となる従業員の方のモチベーションを維持するために、対象者に還元されるような視点も入れるといいのではないか。
- ・山口県のイノベーション関連補助金の採択の約半数を宇部市の関連が占めているのは、取組が非常に

有効に効いていると思う。採択されているテーマをみても医療や環境など楽しみなテーマが多い。

- ・こうした取組を学生の皆さんにもアピールして、宇部市に人材が残るようにつなげていってほしい。
- ・地元大手企業と組んでいる案件などは資金提供しやすい反面、大学シーズの事業化においては判断が難しい。
- ・技術シーズの事業化において、ファンドで支援する場合は、技術の知見があり、プロジェクトを管理できる事業者等と連携しながら取り組んでいく必要があると考えている。
- ・産官学が連携する場としてイノベーション・commonsという共創拠点を作っていくことが地域における成長産業の創出において重要になってくるように思う。
- ・スタートアップ企業が将来的にどこを目掛けていくのか着地点を見つけることが必要。
- ・技術シーズを活かすためにも、技術職が不得意な起業した後のマネジメントや営業展開を支援してほしい。
- ・「語心録」は研究開発の成果が地域に還元される仕組みとしても好事例だと思う。
- ・イノベーションの創出は産学公金の連携に加えて、地域の人の参画や組織横断的な取組が重要だと思う。

【宇部市長】

- ・成長産業のようなわくわくする取組を学生にPRしていくことの必要性を改めて認識した。
- ・先進的な取組を地元の中학생から大学生に知ってもらい、ここで働きたいと思ってもらえるように広げていきたい。また、若い世代に関してはその親御さんに知ってもらうことが必要になる。
- ・たくさんのプロジェクトが立ち上がっているが、今後の方向性を見定めていかなければならない。
- ・取組を開始して4年経過し、これからはインプットだけでなく、アウトプットに拘って進めていきたい。

今回御説明した協議会の令和7年度の事業内容等について、御了解いただけますか。

→ 異議なし

【配付資料】

- ・ 運営委員会委員名簿
- ・ 配席図
- ・ 令和6年度の成長産業の創出・育成に向けた取組について
- ・ 成長産業に関する令和7年度の取組の方向性について
- ・ 取組発表
- ・ アドバイザリー機関による意見等

資料1

資料2

資料3

資料4

資料5

資料6